今月のトピックス

特集 会社訪問 -No.40
有限会社高田商店 様

従業員の一体感を高める「チャレンジ」挑戦を積み重ねてさらなる輸送品質向上へ

青果物や花などの輸送のほか、荷主からのニーズに応じて様々な附帯サービスの提供も行っている、㈲高田商店（印旛郡酒々井町、高田重和代表取締役）。
同社ではこれまでも様々なチャレンジを重ね、輸送品質・サービス向上と社内の活性化への取り組みを推進。我が国の経済活動を支える物流を決して絶やさないために、「SDGs 推進」などの新たな取り組みにも果敢に挑戦している。

同社のトラックは、新鮮な青果物をイメージした鮮やかな黄緑色で彩られている

■「ちば SDGs パートナー企業」に登録 誰もが輝ける職場環境の実現を目指す

㈲高田商店は、平成元年に現社長の高田重和氏が創業した運送会社である。同社は現在、関東近郊の大手スーパーに青果物や花などのルート配送などを行う「運送部門」、大手スーパーに配送する青果物のピッキングや積込みなどを千葉市地方卸売市場（千葉市）内にある配送センターで行う「積込部門」、本社営業所内にある倉庫で、市場から仕入れた花のピッキングや値札貼り作業などを行う「花部門」、自社整備場で車両の整備を行う「整備部門」、各部門のサポート・管理を手がける「事務部門」の５部門で構成している。また、平成 30 年には創業 30 周年を迎えたのを機に、酒々井町内に「酒々井ベーカリーふっくらパン」をオープンしている。

高田社長がこれまで常に取り組んできたことは、「毎年新しいことにチャレンジする」ことである。

「時代とともに大きく変化していくお客様のニーズを的確に捉えることができなければ、当社は生き残ってはいけないと感じています。また、お客様のニーズに対して日頃から敏感な状態でいるためには、当社の従業員にマンネリ感を与えず、常に新鮮な気持ちで仕事にあたってもらう必要があると考えています。例えば、お客様のニーズに応えるために新しい事業を当社内に組み入れたり、従業員を増やしたり増車したりするなどといった様々なチャレンジを続けていくことで、会社の中に活気が生まれ、またお客様からの信頼も高まっていくのではないかと感じています。目下チャレンジしたいことはたくさんありますが、当社では毎年設定する目標の実現に向けて、従業員全員が心をひとつにして取り組んでくれています。新しいことへのチャレンジは、従業員の仕事への意識を高め、一体感を醸成するという効果も期待できます」（高田社長）

同社における新たなチャレンジのひとつが、「SDGs（持続可能な開発目標）」に関する取り組みである。

SDGs は、平成 27 年に開催された国連サミットで採択され、2030 年までに持続可能な世界を実現するための 17 のゴール・169 のターゲットから構成されている。近年、SDGs への理解が徐々に広がりつつある中で、高田社長も SDGs 推進の重要性を認識。同社では、千葉県が創設した「ちば SDGs パートナー登録制度」に参加すべく、今年５月に「SDGs 達成に向けた宣言書」を県に提出。６月にパートナー企業としての登録を果たした。

高田　重和　代表取締役

同社における SDGs への主な取り組みをみていくと、まず「環境問題への取り組み」としては、公共の財産である道路を利用して事業を行う運送事業者として、環境負荷軽減を図っていくという観点から、「エコドライブの推進」や「環境配慮型先進トラックの導入」、「リサイクル紙の利用」や「太陽光パネルの設置」などを行うほか、毎週月曜日には本社営業所周辺でのゴミ拾い活動にも取り組んでいる。

「安心・安全・健康・働く環境への取り組み」では、「健康診断の受診徹底」などの体における健康のほか、様々な行事や従業員同士のコミュニケーションを大切にし、精神面でも積極的なサポートを行うようにしている。また、中型免許・大型免許・フォークリフト免許・運行管理者資格など、ドライバーのスキルアップに繋がる様々な資格の取得支援制度（費用は全額会社負担）を設けているほか、本社営業所の近くに社宅を整備。さらに、東日本大震災（平成 23 年）や令和元年房総半島台風など頻発化・激甚化している自然災害に対応するために、本社営業所の敷地内に防災倉庫を整備。自然災害時においても、我が国の経済活動を支える物流を途絶えさせないための備えを進めている。

「ジェンダー・人・国の全てを平等に」では、様々な人々が同社で輝けるよう、ジェンダー平等や差別撤廃に向けた取り組みを推進。現在、同社では女性従業員が 12 人（うちドライバー１人）いる。また、外国籍の人材採用も積極的に行っており、かつては中国人や韓国人、フィリピン人などの従業員がパッケージ作業に当たっていたという。なお、現在は中国人従業員が積込部門に在籍している。

「『SDGs という形で当社の取り組みを積極的に発信し、当社の取り

毎年継続して実施してきた様々なチャレンジにより、社内には活気が満ちあふれている

「積込部門」では、市場内の配送センターで青果物のピッキングや積込作業などを行う

市場から仕入れた花のピッキングや値札貼り作業などを行う「花部門」

組みに共感していただいた多くの人々に当社の仲間になっていただきたい』と考え、取り組みをスタートさせました。全ての従業員にとって、より働きやすいと感じられるような職場環境を整備し、持続可能な事業運営を実現させていくために、当社では今後もSDGsに取り組んでいきます」（同）

また、同社では再雇用制度の整備も進めている。同社では定年は60歳としているが、継続雇用制度の対象年齢を65歳から70歳に引き上げた。また、近年では70歳を過ぎても元気な高齢者も多いことから、本人の健康状態などを考慮した上で、意欲のある高齢従業員がさらに継続して働けるようにしている。ちなみに、現在同社では74歳のドライバーが活躍を続けているという。

さて、物流に対する顧客ニーズが大きく変化している中においても、「安全性の高い物流サービス」へのニーズは決して変わることはない。同社では、荷主企業に安心して同社を利用してもらえるよう、事故防止への取り組みを強化している。

同社の事故防止対策としては、まず運送部門の中で班分けを行い、情報共有や協力体制の取り組みを強化。各班は1班当たり5～7人で構成されており、それぞれ班長を配置。班分けを行ったことで、メンバー内のコミュニケーション強化に繋がっているという。

また、毎月第2水曜日には「ドライバー安全ミーティング」を開催し、安全教育を実施。特に、車両点検の方法やチェーンの巻き方など、実車を使用しての指導に力を入れている。ミーティングの進行役は各班の班長などが持ち回りで行っているほか、進行役が一方的に話すのではなくドライバーに発言を促すようにしており、ドライバーの意識高揚に繋げている。なお、同社では24時間365日稼働で食品輸送を行っており、全てのドライバーが一堂に会することが難しいことから、ミーティングに参加できなかったドライバーに対しては後日議事録を読んでもらうことで情報共有に努めている。

さらに、車両への安全装置の導入も進めている。デジタルタコグラフやドライブレコーダ、バックアイカメラは全車両に装備しているほか、衝突被害軽減ブレーキや車線逸脱警告システム、居眠り防止システムなどの先進安全装置を搭載した車両の導入も進めている。また、同社では花や果物など衝撃に弱い荷物を運ぶことも少なくないことから、エアサスペンション搭載車の導入も順次進めている。

「当社の仕事は青果物などの食料品を扱っている関係上、24時間365日稼働しているため、早朝や深夜にトラックを走らせることも当たり前でした。また、手荷役も多く、体力的にきつい仕事だと言えるでしょう。しかしながら、私はこれまでそれを大変だと感じたことがありませんでした。むしろ『楽しい仕事だ』と感じながら仕事を続けてきました。平成30年に、当社は創業30年を迎えることができましたが、多くのお客様のご支援はもちろんのこと、これまで会社を支えてくれた従業員にも非常に感謝しています。ドライバーがいなければ、トラックを動かすことができず、当社の経営も立ち行かなくなってしまいます。当社の従業員を大事にし、『いかに辞めさせずに守っていくか』が、今後の当社の飛躍に向けての大きな課題になってくると言えるでしょう」（同）

トラック運送業界全体がドライバー不足に苦しんでいる中で、労働力の確保は物流を維持していく上での喫緊の課題になっている。同社においても、荷役作業の機械化など従業員の負担軽減を進めているほか、長時間労働削減に向けた取り組みを推進するなど、従業員の労働環境改善を加速。また、有給休暇の取得促進にも力を入れており、現在では従業員の多くが有給休暇をしっかりと取れている状況にあるという。

最後に、今後に向けた同社の取り組みの方向性について、高田社長に伺った。

「当社が事業を継続していくためには、お客様にご満足していただけるように輸送品質やサービスを高め続けていく必要があります。毎年当社で実施している新たな施策へのチャレンジは、輸送品質・サービス向上実現への有効な手段のひとつであると考えています。一方で、新たな施策にチャレンジし続けていくためには、チャレンジできるような人材の確保が必要不可欠になります。残念ながら、トラック運送業界に対する社会のイメージは決して良くはないのが現状です。そこで、まず業界のイメージアップを進めながら、人材を確保していきたいと考えています。今年6月には、当社のイメージアップの一環として、かわいらしいシンボルマークを作成しました。また、人材確保と同時に『人への投資』を進めていきたいと考えています。当社でしか提供することのできないクオリティの高い新サービスや高い商品知識は、お客様の心を動かします。例えば、花部門では、お客様からのニーズに応えるために、生花の買い付けなどの業務も一部で行っています。バイヤーの仕事を行う上では、花に対する高度な知識も要求されることから、お客様からのご期待にお応えすべく人材育成を強化しています。業界のイメージアップを進めて人材を確保し、人への投資を通じてサービスクオリティの高い人材を育成していくことで、輸送品質・サービス向上の実現を目指していきます」（同）

ホットにゅーす

■様々な共同作業を通じ業界の仲間との絆を深める「おやじキャンプ」

高田社長は、５年ほど前からキャンプを始めている。

トラック運送業界のキャンプ愛好家から誘われてキャンプに参加し、その魅力にはまった高田社長。今では、業界の仲間たちとの「おやじキャンプ」を楽しんでいる。本社営業所の敷地内にはキャンピングトレーラやドーム型テントが備えられており、ゆくゆくは従業員みんなでキャンプを楽しむのが夢だという。

「キャンプでの様々な共同作業を通じ、業界の仲間との絆を深めることができます。また、仲間たちの元気な姿をみていると、『現在56歳である自分も、もっと元気に頑張らなければ』と刺激を受けます」（同）

本社営業所敷地内に備えられたキャンピングトレーラやドーム型テントの前で、ゆったりとした時を楽しむ高田社長

企業プロフィール

有限会社高田商店

代表取締役　高田　重和

本社　千葉県印旛郡酒々井町下岩橋127-3

従業員　45人（ドライバー28人）

台数　23台